



創立1949年（昭和24年） 高松中学校は今年度で76周年を迎えました。

はるかな尾瀬…野のこ(木)道

夏休み中(7/30～8/1)に、2年生の夏季学園がありました。今年度は昨年までと行き先を変えて、群馬県尾瀬地方へ行きました。二日目には、快晴の下、有名な「尾瀬ヶ原湿原」の木道を歩いて尾瀬の自然を満喫しました。行く前は、「湿原の上の木道を歩く」くらいのイメージしかありませんでしたが、この湿原や木道は奥が深いことをいろいろ勉強することができました。

2億年以上前に隆起を始めた「至仏山(しぶつさん)」や火山である「燧ヶ岳(ひうちがたけ)」に囲まれたこの場所は、川がせき止められて湖ができました。この地方は夏は涼しく(平均気温は東京より10℃も低い)、植物は枯れても完全に分解されないために、湖底に「泥炭」となって積み重なっていきました。1年間に約1mmずつ、長い時間をかけ、現在では4.5～5mの厚い地層となって盛り上がっている状態です。このようにしてできた地形は「高層湿原」と呼ばれます。尾瀬は本州で最も広い高層湿原で、国の特別保護地区として大切に保存されています。だから、地面を歩かずに設置された木道の上を歩くようにしていることがわかりました。自然を保護しているわけです。

木道に使われている木材は、周囲の森から伐採した間伐材から製材されます。「間伐」は林業の大事な工程の一つで、適切な森林管理のために木を選んで伐採していくことです。今回の夏季学園では生徒たちも、実際にグループごとに協力しながら間伐体験をしました。伐採樹木の選定、木の切り方、ロープのかけ方、倒す方向や倒し方などいろいろ教わりました。持続可能な林業を行いながら、湿原の木道は約10年ごとに切り換えられていきます。役目を終えた木道は、捨てられることなく様々な紙製品としてリサイクルされるそうです。

また、木道は観光客だけではなく、「歩荷(ぽっか)」の人たちにとっても重要な道です。重さ100kg以上の新鮮な食料などを背負子に積んで、徒歩で尾瀬の各場所にある山小屋などに届ける仕事です。初日の夜、ホテルに歩荷さんをお呼びして、職業や生き方についての話を聞きました。また、二日目の夜は、木炭にした間伐材を使って消臭効果のあるオブジェづくりをしました。教えていただいた方は、片品地方が気に入ってこの地に住み、ワークショップなどの仕事をしているそうです。二人のお話から、職業を選ぶときには、「仕事をしたい地域」も候補になるということを知りました。



港区立高松中学校 X (旧 Twitter)

学校生活のようすなどを X にて発信しています。
学校 HP の学校ブログと合わせてご覧ください。